

幸子から謙一あて（一九四四年一月三日の記・消印）

十一月十三日晴

風越の裏山に雪が来しました。まもなく伊那山脈にも降る事です。朝はチャン／＼コを必要とする位寒く、七時半頃でないと陽が顔を出さなくなりました。山の中腹以上は輝いてゐても、鼎村は特に低いところにあるから長く暗いのです。今朝は看護婦さんとお母さんの防寒用頭布を縫つて、午前中すぎました。軽くて暖かで、夜窓のそばで勉強するには大変具合よろしいですから、其の中あなたにも使つて送ります。前の防空用程大きくも重くもありません。

おひるすこし前に深三郎叔父が来たため、今持つてお母さんは御機嫌わるい。口の中でブツ／＼云つて一人で怒つてゐます。

今朝は猫の夢を見た。猫を殺すのにのどいっぱいにするめです。つばでするめが段々大きくなつて窒息させてゐて、其の時の猫の苦し相な声がたまらなくて許してやってくれと云つて、ピンセットでするめをとり出さうとあせつてゐるところ。其の猫はプシの様で、ぼつてりしたところ、毛並のツヤ／＼、鼻先のピンク、声までそつくりで、目が覚めてから嫌な気がしました。プシが誰かにしめ殺ろされたのではないかしら。あなたの云ふ通り、何処かですつと前に死んだのならまだいいけれど、案外いぢめられて卑屈な猫になつてゐるのぢやないかしら。よごれてやせて。そんな事を考へると本当に嫌ですね。こんな時代は生き物を飼ふのも、いろいろな嫌な事もついてまはるから、考へものですね。風が又ひどくなつて来ました。こんな日、昨日の様にゴカキに行くと、うんと拾へるでせうね。自分で自由に出来る自分の家を持つてゐたら、大籠を負つてゴカキに行つて、冬中のたきつけをたくわへるのも、又楽しい事です。そのたきつけで夕飯ごしらへ、お茶わかし、なんて云ふ桃太郎のおぢいさん、おばアさんの様な山里の仮ずまひも、風流なものだなんて感じました。

煙草はおくつて下さる相で有難うございます。お父さんも此のごろ大分節煙ですし、女連中は皆やめてしまひましたから、あまり御心配なく。たまに下さる位で、あとはあなたの都合で何かと利用して下さつた方がいいと思ひます。お百姓さんも煙草を持つてゆけばちがふでせう。お父さんもあればある程ほしいのですから、なければないで段々少くなるでせう。もうひところ程ウ／＼しなくなつた様です。

ここはおいもだの柿だのお茶だなんだと、始終食べるものはありますが、どうも時間の無駄があつて、自分の思ふ様にならぬのは困ります。

朝ちやんは下伊那の健民修練所(前)の風越館へ、此の十五日からゆく事にきまりました。その献立表みたら、一日置きに天夫羅です。材料はうんとあるらしい。卵もとりにくも。石橋さんは献立表をのぞいて20分も考へこんでゐたが、僕も三保村(前)の学校はやめて、この教師になりたいな。文化教養係に雇つて貰はうか

と虫のよい事を云つてゐました。「あさ子さん、たまに遊びに行つたら夕飯位食べさせてくれるでせう。前もつて電話するから」なんて云つてゐて、お母さんからいしげなんぼなんだなあと、悪口云はれました。百五十人近くゐて、ヨ算もたつぶりある相で、所長は小児科の松井先生です。お風呂も毎日あるし、部屋は前が料理屋で、まち合風の一軒建が二十位バラ／＼あるし、一軒あてがつて貰へば便所もついてゐるし、玄関も別だし、便利でせう。一軒二部屋位で、書院風の座敷(三、六)です。

では今日は話らない事ばかりでごめんなさい。又、晩に書きませうね。風邪に気をつけて。

幸子から謙一あて(一九四四年一月三日付け、同日の消印)※

こないだうち、あなたにあげ様／＼と思つて、遂忘れてしまつたお守りの中味をあげます。これはまむしの皮です。大さう、いろいろ御利益がある相ですから、此の夏に作つてあげたお守り袋に一緒にいれて、モンペにブラ下げておいて下さい。

あのお守り様、なくしたのぢやないこと? 此のごろ、つけてゐなかつたぢやない?

※この封筒には中身が入っていません。ただ次に掲載する「一三日の記、一四日の消印」の手紙文に、「前便同封のまむしの皮」とあり、同じ封筒中に紛れ込んでいた別便と思われる一枚の用箋には、「まむしの皮」を送付する旨が記されていたので、本来この封筒中にはその一枚が「まむしの皮」とともに挿入されていたものと判断し、ここに掲載した。

なおこの空封筒は、ひとつ前に掲載した「一三日記の手紙と、日付け・消印日とも同じだが、封筒裏面に記された通し番号は前のが「24」に對し、こちらは「25」となっている。おそらくは「24」の手紙のすぐあとに投函されたものであろう。

幸子から謙一あて（一九四四年一月一三日の記、一四日の消印）

十一月十三日夜九時。

緒論、すつかり読み終りました（尤もノオトは六までですが）。前にも書いた様に、今度は一寸もむづかしいとも何とも思はず、たつぷり理解出来たと思ひます。

四、六、七の出来栄が特によと思ひます。四で、アメリカ史全体の主要な線が自分のものとなり、六では、アメリカの歴史だけでなしに歴史研究一般について考へさせられるところあり、所謂歴史と云ふものの中には難多な歪曲された歴史があること、政治的干渉なしの真の歴史を書くことの困難なこと、書かれた歴史はおほむね「歴史の独立性」を持たぬこと、政治的な歪曲なしの歴史を知るために、私共は常に受身であつてはならぬこと、にもかかはらずアメリカの場合ではプランターの弾圧、恐怖政治をはねかへして歴史の前面に自らを押し出して来るもの、シエアクロッパ・ユニオン等があること、其処にこそ人間の歴史的進歩（？）があること、などを考へさせられました。

七は南部問題で一度よみ、先日読んだ中の第二章第七節、第三章第二節、第四章全部で、ほとんど生々しい記憶の中にあるところで、大変に愉快によみました。最初読んだ時は七のところなど、ほとんどわからず通過したらしい。今よんでみて、第二章以下で出て来た事で、其の時始めて読んだ事だと思つてゐた事が、全部出てゐました。

本当に此の緒論は、同時に結論でもありますね。緒論だけで四日かかりましたが、明日は残つた分（七、八）のノオトをとつてから、もう一度通読したいと思つてゐます。

No.16のお手紙有難う。十三日の夕方つきました。スタンプは十一日ですから、三日目にはつきますね。防空壕の水の汲出しとは大変でしたこと。地下水が湧き出る様では、いざの時困りますね。椅子でも持つて這入らなくつちや、リョーマチになる。

あなたの本の広告はやぼつたかも知れないが、本質をよくあらはしてゐるではありませんか。よつほどよんだ人が書いたのですね。大体今月中に出版されるでせうか。例の心配が杞憂である様、ねる前には必ず何かにお祈りしてゐます。前便同封のまむしの皮もサイ難除けなのよ。身体にくつつけて置いてごらん下さい。

淋しいおたん生祝ひだったのね。誰にも御バイ食の栄を与へなかつたの。それでもたつぷり食べられたのは、よかつた

方ですね。お豆を近日、すこし送りませう。いつて食べるというのですが、—どうもあなたは一度に皆、食べてしまひさうね。

白田嬢の感想—不思議ね。そんなに私が大人に見えたとか。森井さんはまだきどりと云ふか、スタイルをつけてゐるところはたしかにあつて、それが子供つぽいと云へば云へるかも知れないけれど。私は白田嬢とはろく／＼話らしい話をしなかつたし、一緒にゐた時間も20分位なものですから。それに意地わるな心持があつて、デロ／＼眺めたりしたのに。どんな意味でさう云つたのか不思議だわ。「白田さん」と云つても、私はもう偏見を持たないから、ありのまゝに本当の事を書いて下さつて大丈夫ですよ。あなたが帰るやいなや、ピタツと何ともなくなつたんです。かへつてあなたに偏見を与へていけなかつたのね。もうすつかりあの件は、私に於ては発展的に解消よ。本当に心配しないでね。

あなたが帰京して淋しい事は本当に淋しいけれど、心はみち足りた安らかさがあります。平静さと平和と、そうして前進へのゆつくりした心構へも知らぬまに出来てゐました。こんなに云つてもあなたは信じられないでせう。帰る前とあまりにもちがふから。でも本当なの。「みちたりた」と云ふ形容詞が一番当つてゐる心持です。それはちよい／＼とあなたがゐたらなアと思ひますが、あせる気持や暗い気持はみちんもありません。これもあのプランティションをよみ切つた事が—とても私にはよめないかも知れぬと云ふ不安、自信なさを一掃してくれたのかも知れませぬ。それもウンとありますね。そしてあなたとの二週間の暮しが飢えた心情をみたくしてくれたのでせう。さうしてあなたへの信頼や愛情を更に深めたからもあるのですね。

プランティション、あの杉大な、あの濃厚な、あの沢山の問題を含んだ、あのむづかしいものをよみ切れた事は、たしかに私へ失つた自信を取り戻してくれたのです。よみ切れた事はあなたとの二週間の暮しが大きな／＼圧倒的な助力であります。あれなしには(と云ふのはいろんな意味よ)私は自信なくて、よめるところも読めなかつたらうと思へるのです。結局あなたの愛情やあげましなしには、読める力が湧いて来なかつたと思ふの。

あれを書いた事があなたに大きな成長をもたらし自信を与へたと同様に、あれを読んだ事は私にも成長を自信を与へてくれたのであつてほしいと願ひます。あの中の個々の少さい一ツツの問題でも、私の考へ方の上に実に大きな影響を与へてくれてゐます。そしてあれ丈のものを書き上げたあなたの成長をびつくりして仰いで見てゐないで、私もすこしでも引き上らうと思ひます。では今夜はこれでおしまひ。

風邪を早くなす様に、いい仕事、いい勉強をたつぷり出来る様に念じ乍ら。

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年一月二三日の記）

十一月十三日（月）晴

今朝手紙No.17を出したすぐあとで、小使さんが小包を届けてくれました。上つぱりと粉と重曹、どうも有難う。何よりもいい誕生日でした。ブルーズの出来工合は中々上等です。ちよつとルパシカのやうな腕の工合もいいし、タツプリしてゐるところも気に入りました。「中々いいね、芸術家みたいだよ」と、小包を解いてさつそく着てみる一部始終を見てゐた竹中君が卒直な意見をのべ、「まあ、お立派な、とてもお似合ひですよ、まあ、ほんとに」とは、お茶をもつて上つて来た小使ばあさんのほめ言葉です。「僕のフラウもずい分サイホウがうまくなつたもんだな」「君のオクサンが作つたのかい。迎もいいよ、うまいよ」。今日は暖くてブルーズを着てゐる必要もなかつたが、ずつと着てゐました。

数日前から臼田君が、高崎の判事をしてゐる兄さんが病勢悪くて行つてゐるので、此の頃は竹中君一人が朝の話相手になりに来ます。「それはさうと、君に借金したいんだがね、少し多いんだ。80円要るんだ」「80円か、今30円あるが、明日ならあと五〇円都合して来るよ」「明日で結構」「また本かい」「うん、とつといてくれないんで、他人に買はれると困るんだ」「何だい、ものは」「アメリカの奴隷解放論者の叢書さ。十一冊で80円だから安いんだ、ほつとくと危いからな」「さうだよ、早く買つちやへよ。君の本はまだかい」「今月末ぐらいかな」「今度はまつさきに読むよ。君の話をきいてゐるので、歴史が面白く好きになつて来たよ。だけど何だね、調査会ではやつぱり君が一番はり切つてゐるね。本当の意味の専門家て君一人ぢやないか」「調査会なんか相手ぢやないよ。日本中の学者、いやアメリカの学者も相手だ、と云ふと少しうぬぼれすぎるかな。だけど駄目だなあ、たつた一冊書いたきりであとが続かん」「それだつていいよ。僕なんか今年は何にもしなかつた」「君はまあ兵隊に行つたんだからな」「うん兵隊にも行つたり、今年中に結婚もせにやならんし」「相手はどう云ふ人だい」「相手なんてないよ」「相手なしに結婚せにやならんて何のことだね」「うん、結局さうなりさうなんだよ」「どうなるんだ」。

「いや結婚と恋愛の問題では僕も君の意見に全然賛成するんだがね、実際問題となるとさうもいかないんだ。両親が病気がよくなって、もう余り長くなささうなんでね」「それで両親を安心させるつて云ふんかい」「いや両親の世話をする人がゐなくて困るんだよ」「なあんだ、そいぢや両親の世話をするために結婚せにやならんて云ふんだね」「さう云ふわ

けでもないが……やつぱりさうだな」「そいぢや一体君が結婚するのか、両親が結婚するのか」「そりや君の云ふことはよくわかるよ。だけど恋愛なんて待つてゐてもチャンスは中々ないし、見合結婚や両親の持つて来る相手でもない人がゐないとは限らないだらう」「そんな頼りないこと云つちやいかんね。恋愛は待つべきものぢやないよ。見合結婚なんかする男はみんな同じやうなことを云ふ。いい人に当らないとは限らんなんて、全く身振ひするやうないや言葉だ。それぢや始めから大部分は『いい人』でないのを予期してゐるやうなものぢやないか。君はさつきも、T君を見るのもいやになつたとか、好きな人は好きだが嫌ひになるとがまん出来ん程嫌ひになると云つてゐたね。所が初めはT君についてもさうは云つてなかつたらう。結局半年なり一年なり同僚として一緒にやつて来る中に、がまんのならない相手になつたつてわけだらう。それが妻の場合だつたらどうだ。最初の見合ひの印象なんかで人間の全貌やその発展がわかるもんぢやない。ましてや夫婦としての生活は、同僚との生活のやうなものぢやないよ。相当お互ひに理解し合つてゐても、結婚生活には入れれば新しい矛盾も出てくるものだ。相手が両親の世話や君の身のまわりの世話をやる、いはば女中としての妻、または子供をつくるための機械、そんなことは機械的にも出来るからね、そんな機械としての妻に満足出来るのならいいさ。だが妻に人間であることを望むとしたら、君の考へてゐることは言語同断だ」「だけど両親が」「両親の世話をしてくれる人を見つけることの困難と、君の不道德な結婚とどつちが重大だね」「そりやあね、君の云ふことには原則として全く同意するよ。だけどその原則の方法は一つと云ふわけではないと思ふんだ。つまり夫婦は恋愛を基礎とすべきだらうが、見合ひなり親の世話でなりに結婚することになつた相手と、恋愛をきづくことも出来んわけぢやないだらう」「出来んわけぢやないさ。だが君、結婚とは君だけの重大事ぢやないよ。君の相手にとつても、また君とその人との間に生れて来る子供達にとつても、或ひは君及び君の相手の両親や近しい人々にとつても、極めて重大な問題なんだよ。それを『出来んわけぢやない』とか『……とも限らん』とか云ふやうな頼りない、偶然的なものへ依存した態度で決定するなんて、全く不誠実だし不道德だ。結婚にはリーベ以外に方法があるべきぢやない。むしろ両親の世話と云ふことについてなら、いくらでも方法がある筈だ、結婚と云ふ方法以外にね」「だつて僕等は外に結婚の道が事実上ないぢやないか。それに僕は今両親のために妥協してさう云ふ結婚をしても、子供には充分教育を施して、いはば次のジェネレーションで此の問題を解決させることも出来るだらう」。

「馬鹿云つちやいかん。自分が妥協して、次のジェネレーションに斗ふことを要求するなんて卑劣極まる。逆に次のジェネレーションに不要な斗ひを負はせないために、今我々が斗はねばならんのぢやないか。今丁度僕の読んでゐるオイジ

ブースのモラルを考へるといい。オイヂブースとイオカステとの二つのモラルの対比、アンチゴネーとイスメーネー、プロメトリスとヘルメス、ファウストとワグナー、アンネットとシルヴィ、英雄的眞実者と卑俗な偽善者、二千年、三千年の昔から今に至るも続いてゐるこの人間の二つのタイプについて考へるといい。君のかう云ふ重大な人生問題に当面した時、君の之まで読んだ偉大な芸術品、偉大な人間の歴史的实践が、凡ゆる角度から君の判断を助けてくれる筈だ。バルザックを、シェクスピアを、ダンテ、セルヴァンテス、アイスキロス、ソフォクレスを、すつかり想ひ出したまへ。かうなるとドストエフスキーなんか役に立たん。こんな時に君がさうした多くの人類文化史上の傑作、人類の思想的財宝から、何等判断の基準も指針も示唆も得られないとしたら、君がそれらを単にディレッタントとしてしか読めなかつた証拠だ。君は原理はわかつてゐるのだと口で云つても、そのこの含む意味の全体はちつともわかつてゐないのだ。原理をその一切の帰結、あらはれ、因果關係に於て理解してゐないのだ。ギリシヤ悲劇やシェクスピア、バルザック、ヘッベルは人間關係のわづかな不合理、不誠実がどんな大きな意味をもつかを、ドラマティックな展開を以て徹底的に示してくれてゐるよ」。

「うん、……悲觀したなあ」「悲觀なんかする必要はない。元氣を出して誠実に考へて行動するといひんだ。僕の若い友人に、もつともつと困難な家庭問題に悩み苦しんでゐる人がゐる。君の場合なんか、この一大苦惱の時代の、むしろごく簡単な問題の一つだ」「だけど小さいことでも、どうにもならないことと云ふのはあるものだらう」「どうにもならんことぢやないよ。一切は君の自由な選択権にかかつてゐるんぢやないか。君自身の生涯に関する君自身の結婚問題を決定するのに、他力本願や責任回避は恥づべきだよ。君が奴隷であるとか、自由人でないとか云ふのなら別だが。物事のなりゆきに身をまかせると云ふ風なイージーゴイングは卑劣だよ。君の全論理はひたすら防禦的で自己弁護的ぢやないか。自分のモラルを断乎として主張すると云ふやうな、誇らしさや積極性が何もない。自分の一切を自らうちこすことになつても、眞実を知り眞実を貫かうとしたオイジブースのヒロイズムを学ばないといかん。ごまかさずに誠実に全力をあげて、考へ判断するんだね。でないと罪をおかすことになる。人間關係をいい加減に考へるのは、人間關係の解放されてゐない遅れた社会で通有な悪い癖だが、そんな癖を君のやうに若くて歴史なり人間なりについて考へもし、認識もしてゐるやうな人がすてられないなんて情ないぢやないか。とにかく考へたまへ」「うんまあ考へてみよう」。

ラモオの甥のやうな手紙になつたけれど、竹中君のやうなのは現在日本の若い世代の男性の一つの典型であり、大金嬢などと比べてみるといろ／＼考へさせられると思ふので書いてみました。僕の説得力も貧弱で、もう一年以上もいろ

く、とシヤベツて来たのに、こんな問題で僕のシヤベツて来たことの無力を遺憾なく見せつけられた気がしました。明日もつづけてシヤベラねばならないでせう。尤も僕は此の頃、自分のシヤベルことの効果について自信をもちません。結局みんな、僕と云ふ人間を、僕のシヤベルことを、何と思つてきいてゐるかわからないのです。何だか言葉の通じない人間どもと生活してゐるやうな気がして来ました。言葉が通じないくせに一生ケン命に、ない力のありつたけを出して、よく云へば兎をうつにも全力を尽す獅子のやうに、悪く云へばのれんに腕おしする愚か者のやうに、凡ゆる問題についてシヤベツて来たのです。「プランテーション」も何人の理解者をもつことか、いや何人の通読者をもちうるることか。とはいへやつぱり明日もシヤベることです。

幸子から謙一あて（一九四四年一月一四日の記、一五日の消印）

十一月十四日晴天、朝8時（零下二度）

今日の午前中は植木屋になり庭掃除専心。枯枝を払つたり枯草を刈つたり、落葉を集めて焼きました。晴れた青空に立ち登る落葉の煙は実に長閑なものです。ふと気が着くと指に二ヶ所傷が出来てゐました。石灯いしとうとうですりむいたものらしい。それから池で大根洗ひ、お母さんと二人で六貫匁洗ひました。大根一貫匁の値段は五十銭です。

大根洗の後はあなたの防寒頭布（巾）の製作、約一時間で出来上りました。なにかいいものを探し出して一諸（諸）に送りませう。朝夕の火を起す時にも埃除になります。ミシンを使つてゐる間、早苗と其の五人の友達とのおそびを聞いてゐましたが、最後は早苗のわがまゝ、いぢ悪、よく深で子供達は帰つてしまひ、早苗は泣き、お婆アちゃん（お婆）が勝手な理屈をこね、朝ちやんとお婆アちゃん（お婆）の口喧嘩になりました。

午後は炬燵蒲団のカバーつけ、掃除、夕飯支度ですつかり潰れました。昼まのうちは自分の時間はないものと諦めなければ駄目です。さうでないとい時間（暇）の無い事を不平に思ひ勝ちですから。今丁度七時半です。これから勉強にかかります。昨日また伊勢湾にB29があらはれた相ですね。わが軍の飛行機は追ひかけないのでせうか。

あなたの昨日の手紙にあつたS氏（原文）の演説は、どの新聞にあつたのかしら。もし切りぬいて送れる様なら見せて下さい。但し無理しないように。こちらでは紙不足のため新聞はたちどころになくなつてしまふので、後から探し出す訳にはゆきません。其の演説は是非読み度いものです。

今度あるであらうB29の空襲の事を思ふと、矢張り

一、食料品 二、水筒、箸、弁当箱、コップ一箇

三、衣類、下着類、ざぶとん（若くは毛布）

四、新聞紙少々、油紙少々

五、手ぬぐひ、袂、紙、糸針、ふるしき、まつち、ローソク

六、歯ぶらし、石けん、ペン（鉛筆）

七、救急箱

八、貴重品（印鑑、通帳、配給切ぶ、財布）

非常持出し袋の中へ用意しておいてよいもの丈詰めて置いて、毛布や八の貴重品は、いざの時すぐ詰められる様になす
つて置くこと。くだい様ですが忘れぬ様、早速処置なすつて下さい。

では詰らない手紙ですが、今夜はこれできようなら、不勉強でも乍ら、毎日手紙を書くこと、こんなのにあります。

謙一から幸子あて（一九四四年一月一四〜一五日の記）

十一月十四日（火）晴

お手紙有難う、十一日づけの。

猫達が死んださうで、可哀さうなことをしましたね。折角あそこまで大きくなつて、可愛（愛）くなつてゐたのに。それにあなたにとつてはプシを想ひ出すすがにもなつて、死なせたくはなかつたでせうに。猫も一匹前になるのは中々大変なんです、いろいろな苛酷な現実や障害があつて。とすればプシなんか我々の、いや大部分あなたの丹青（丹）があつて、やつとあそこまで、あの頼もしさにまで育つてゐたわけで、その意味でも惜しかつたですね。早苗ちゃんもガツカリしてゐるでせう。

「プランテイション」についてのあなたの読みかたも、漸く本格的になつて来て嬉しく思ひます。一つの本を読むのに、そこに書かれてあることをそれだけで、それだけとして（個別として）読むのでなく、その書かれた個別的現実を普遍的位（位）置に於て、他のさまざまな諸現実との有機的聯関に於て、生命の通つた運動するディアレクティクに於て読むと云

ふ読みかた、従つてそれを書いた著者の全感情の凡ゆるニュアンスやひび、(襲)にまで肌ふれながら、いや著者の意図や感受性をこえてまで、読みとると云ふ読みかた、さう云ふ読みかたこそ本当のよみかたなのでせう。本を媒介に書いた人と読む人の心と心とがしみぐと相通ふ、共鳴する、さう云ふ読みかた。さう云ふ読みかたはまた、著者の熱情がその本にもこもつてゐるか否か、著者が誠実か全力を尽してゐるか、生活の全振幅を以てうちこんで書いてゐるか否か、を識別することにもなるでせう。さう云ふ読みかたで読んでくれる人には、僕の「プランテーション」は、外の専門書や啓蒙書の何にもさう劣るとは思はない程度の豊富さを与へ得る、と思つてゐるのだがうぬばれかしら。少くともさうありたいものです。僕はあなたに、あの本を書いた全生活感情をすみぐまで味解してもらひたくて、僕の情熱を、人生観世界観を、心情生活と智的緊張とを、全部的に理解してもらひたくて、そのことによつてあなたと心ふれ合ひ、いのちを交流させあひたくて、あんなに執拗に読んでくれ読んでくれ云つたのです。そしてその欲求が満足させられない間は、あなたに不当に冷たかつたり、怒つたり、我がままを押しついたり、意地悪を云つたり、とにかく悪いことをしたのですが、今はその欲求が満足させられようとして、すべての僕のやつた「悪いこと」を悔いわびるのみです。

なほあなたの疑問の一つ、語義について。語義と云ふものは、ものの歴史的内容を反映する限りで重要であり、語義の成立乃至変遷がそのまま、そのものの歴史的形成乃至転変乃至発展を、多かれ少なかれ反映するものなんです。プランテーションの場合は、典型的なものイギリス植民地に展開されたので、英語のプランテーションが世界語になつたと見らるべきです。尤もラテン語にも結びつけられますが。スペインやオランダはプランテーションとは呼ばないし、若干偏差もあつたのです。プランテーションの発生については、僕の調査会の原稿(南北戦争の。たしか二階へ持つて来てありましたね。朱色の線のある原稿用紙で、半ピラ六百枚くらいのも)を読むときつとわかるでせう。「プランテーション」が終つたら読んでみて下さい。その原稿は、民族叢書のアメリカ史と「プランテーション」との間の時期に、すなはち昨年の前半期に書いたものです。今書いてゐるのは、その独立戦争の部分かきかへてゐるのです。今日は学士会館で秋田県へ行く藤本君の送別会がありました。集る者八人、即ち藤本君の外は鈴木正四、市川、竹村、山田、北条、西海、僕。西海は佐賀高校教授になつてゐるのですが、たまぐ東京へ出て来たものです。「それにしてもよくこれだけ集つたね。支那事変の初めに北条の召集の時と同じメンバーぢやないか。津吉と上田がゐないだけだ」「上田は京都から帰つたばかりだが、今日は連絡つかなんだよ」「西海もずいぶん有為転変したね。だがどうやら落ちつく所へ落ちついた形か」「藤本も有為転変ぢやまけん方だね」「うん、リレキシヨ書くとき困るよ。一枚で書き切れんよう

になるぜ」「竹村はフラウ疎開か」とところが却つて向ふ^③の方が危いんだ。土佐の海岸一面にトーチカを築いてゐるんだがね、それが材木だけのトーチカだよ。その辺の山はみんなはげ山になった」と云ふ風に、例によつて時局談には入り、食事をはさんで八時の閉館までケン／＼ゴウ／＼シャベりつづけました。誰も一向かはつてゐなくて、よくしやべり、またよくいろんなことを知つてゐる。北条君とは経堂まで一緒でした。

学士会館の夕食は此の頃としてはいい方だったが、ムロン足りない上に今夜は、明朝芦野氏が分室へ来る筈になつて、それまでに戦争史の要約を二十枚ばかり書いておかないといけなくて、徹夜しなければならず、そのために九時すぎに帰つてから炭火を起していもをふかし、ムシパンを作りました。ところが一時すぎになると火はとつくになくなるし、冷えて来るし、此の頃ずつと寐不足のせい^②か睡くて頭が働かなく、書きなほしてばかりで原稿は一向進まないの、もう寐ようと思つてゐるところです。手紙の此の頁だけは、その眠い中で書いたので、何だか要領が得ません。二、三時間寐て、明朝早く起きて、原稿の続きを書きませう。おやすみなさい。

十一月十五日(水)晴。

今朝は憂鬱な朝でした。原稿を書くつもりで四時頃に眼をさますと、丁度表で「クンレンクウシユウケイホウハツレイ」と大声でどなるのがきこえるのです。知らなかつたのですが、今日はこの辺の防訓日だったので。これちや原稿も書けない。仕方がないから露台へ出て、何とも云へず美事な星空に、寒さも睡さも原稿の出来てゐない気の重さも暫く忘れてみとれました。あなたが今頃何か偶然眼がさめて、この星々を見ればいいのだがなあと思ひました。今土星と木星とが出てゐる。一人で星を見る時いつも、この星々をあなたがやはり愛して、丁度同時頃に伊那谷から見るといいのにと思ひます。

だが今日は原稿があるので、さういつまでも星にみとれてゐられません。防訓の警戒警報がとけた午前六時まで、やきもきしながらただ暗闇で書くべきことの構想を発展させるのみで待ちました。それから火を起し(防訓中は火を起せない。煙を出したり焔を見せたりすると、どなられるおそれあり)、一豆^①ごはんといもを作りしました。朝はいも(ジャガとおさつ)だけです。この前私室へやつて来たから、今日も警戒して掃除や片づけも一通りしました。

原稿は予定の三分の一しか書けず、何と云つて芦野氏に答へていいやら全く弱りました。西井君は三十枚昨夕までに清書もすまして、悠々として「菊池君出来ましたか」と、やつてくるなり話しかけに来ました。「出来ないんだ、弱つた

よ、金チャンどつかで卒倒でもせんかな。今度と云ふ今度は弁解のしようもごまかしようもない、弱つたな」。さすがの僕も半ば悲鳴をあげ、何とか急用か電車故障かで金チャン来なければいいがと思つてゐたら、九時少しすぎに早くも金チャンがあらはれました。一しきりみんなと駄弁つたあげく、「ぢや今日は歴史のことで話をきかうか。進行状態の報告もきかうかね」と云ふことになつて、芝生の日なたへ椅子をもち出しました。僕も覚悟をきめて、たつた七枚しか出来てゐない原稿をもつて来ました。

所がこの時彼はピアノの上のシューベルト歌集を見つて、「これは誰のだね」「菊池さんのです」「菊池さん？ 歌ふんですか。ピアノですか」「ピアノですが、まだ一つ二つははじめたばかりです」「さうか、菊池さんはピアノ弾けるのか」と云ひ乍らピアノの前について、「菊池さん、之知つてるかね」とリタネイを弾き始めました。うまいわけぢやないが馴れた手つきで、大分練習したらしく読譜もたしかです。僕よりはよく知つてゐるやうです。しまひには弾き乍らうたひ出しました。「今何やつてるの？」「魔王ですよ」「魔王？ それや長い奴をやつてゐますね」と、自分で弾き出し歌ひはじめました。譜はよく知つてゐるし歌もうたへるが、まるで品のない弾きかたで、まだ練習中の僕の方がよつほどシューベルトらしい感じを出しながら弾けます。彼はよくごまかすし、タイムなんかいいかげんです。

だがピアノですつかりいい気持ちになつた金ちゃん（金ちゃん）は甚だ禦（お）し易く、僕の七枚の原稿にも感心して、僕の説明ですつかり満足して了ひました。所が西井君の三十枚は「これはもう少し何とかならんかな、まだやつぱり分析がないね」と却つて不満を洩らしました。僕（僕）の原稿は未完成でも凝つてゐるから、西井君なんかのとは質的にちがふことが、素人の芦野氏（芦野氏）なんかにもよくわかるのです。之はいつもさうですから、あながち僕のうぬぼれぢやない。そのかはりたつた七枚のために三、四十枚書きつぶし書きなほしたのでから。あとは歴史と戦争史の話で、之は僕がすつかりリード出来る話題だつたので、見事に本日の難関を切りぬけました。みんなが半ば呆れ半ば感心するほど。

西井君と倉橋君と僕と三人がベンチに並んで芦野氏と応待（お）してゐる所を見た堀江君が、「ブルドックとチンとフォックスステリヤみたいだね」と云つた為に、女の子達が悲鳴にも似た笑ひ声をあげて芦野氏をふり返らせたものです。ブルは西井、チンは倉橋、僕がフォックスステリヤださうで、どうも余りにうつつけで、さすがの僕もふき出しました。むろん之はあとになつて知つたのですが。

昼食は芝生でそろつて食べました。僕も豆めしを弁当につめて参加しました。みんな夫々御馳走だが、一人ものの僕と八木君とだけはおかずなし。尤も八木君はみそづけをおかずにしてゐました。この頃昼食は大い（塩あじ）豆めしだけ

ですが、馴れて一向苦になりません。そのかはり朝と夕とは、ムシパンやいも、やらたつぶりたべるからいいのです。いもはオサツはなくなつたが、ジャガが少し買へたのです。今の所食べ物心配は要りません。ササゲはまだ三分の一ぐらゐら^③食べただけだし、之があれば蛋白質をとれるから栄養にもいい。大豆の方がいいが、大豆はついおやつやうに煎つて食べて了ひますからね。

十二日付の御手紙は午後受取りました。いろ／＼心配してくださつて有難う。だがブルーズを着てると暖いし、火もさう苦勞しません。うちわを買つて来たことは大助かりです。食べ物も澱粉、従つてカロリーは豊富で、おやつはたべなくても空腹ぢやありません。水もよく出ます。もう三ヶ月半になりますから馴れて、何でもそんなに面^④作でなくなりました。人々はガランとした寒さうな殺風景な部屋で、夜すごすのは淋しいだらうとか、みんなが一せいに帰つたあとさびしくないかとか云つてゐますが、みんなが帰つた方がピアノも叩けるし、好きなものを作って食べられるし、却つてよろしい。とにかく御心配に及びません。

アメリカ史も大分よくわかつて来たやうですね。お母さんに話せるやうになつたのなら、その理解の程度は立派なものです。僕もアメリカを知る上に、今度の「ブランテイション」は一番適當な本だと云ひたいくらいです。アメリカの国柄も歴史も、よくわかるだらうと思ふのです。日本の政治や社会と思ひあはせることもいいでせう。

今夜はのどがかわいたのでビールを一本のんで了ひました。貝柱の配給が夕方あつて、之を醬油で煮たのです。此の頃のビールはアルコール分少いらしく、一本のんで大して酒気を感じません。ケロリとしてゐます。そのかはり今朝の寐不足で大分睡くなりました。

吉武君の所で女の子がうまれました。その中彼を訪問させう。森井さんから手紙が、今日から出勤し始めた臼田君によつて届けられました。詩の感想ものべて来ました。「プロシオン」に載りました分は、あの春始と誦して居りました。外の二つもしみじみなつかしく、くり返し読ませていただきました。正さんへの私のきもちも殆どそのままでございます……」。彼女もあれから一週間余り陸軍省へ勤勞奉仕で忙しかつたやうです。あなたへくれ／＼もよろしくと云つております。

では今夜は之でおやすみ。風邪は悪くもならず、どうやらせきもおさまりました。あなたも元気に朗らかに、淋しがらずに勉強して下さい。

謙一から幸子あて（一九四四年一月一六日の記）

十一月十六日（木）雨

ビールが効いたのかぐつすり寐て、起きたのは七時近く、雨か曇りか外が余り明るくないので、火を起す面^つにやささか気重く起きてみると、どうやら雨ではないらしい。それにしても遅くなつたぞと思ひつつ、コンロを持って下りて行くと下もまつくら。外へ出て石炭の火を起してゐると、やつとガタ／＼雨戸をあける音がして、「すつかりお寐坊してしまひましたよ」とオチヨボぐちでてながら、小使婆さんが顔を出しました。寒くなつて曇つたり雨だつたりすると、老人でも、いや老人の方がずつと、起きにくくなるものなんぞでせう。だが僕は寐足りて上機嫌です。

今日はあなたのお手紙三通が来て、郵便箱も豊作です。おまもりのへビの皮、ありがたう。蛇の皮は象徴的です。蛇のやうに古くなつた外皮をきれいに断然脱皮して行くことは、我々の成長にも不可欠ですから。古代人が蛇を神聖視したり賢明な動物としたのは、脱皮と云ふことに関してなのでせう。何度も若返り、不死の概念ともむすびついたかもしれせん。おまもり袋は夏服のズボンについてゐたので、思ひ出してはづしておきました。

プシの夢と云へば、近頃、僕も見ました。プシが逆も重くてなまりで出来たもののやうにずしりと、抱いてゐる膝にこたへ、それからどうなつたか筋は忘れたが、プシに対するいとしさ^よとわびしさとの夢中の感情だけは、夢のあとまでなま／＼しく残つてゐました。多分死んでゐるでせう。二ヶ月も原宿にゐた間、どこへもあらはれなかつたのですから。朝ちやんの就職はよかつたですね。朝ちやんも元気にやつて行くこととせう。

緒論の感想大変有難う。あの六の中で、市民的限界を脱した新しい歴史家（アレン等）のことに触れなかつたのは大変苦しかった。即ち南部の問題の歴史的な再登場と南部再建の再評価とは、一方でクロツパーユニオンの成立と、他方で若き市民的限界を脱したコムニスト歴史家の成長と聯関するのです。そのことは又別に書ける機会を待つことにして、今はあれだけしか書けなかつた。

あなたが遂に精神的に「みちたりた」境涯に達したことを嬉しく思ひます。それだけ強く成長したのでせう。その成長へ、僕のプランテーションもあづかつて力あつたのなら、一層僕の喜びも大きいわけです。みちたりると云ふことは、心の状態である^よやりも、心の動態の中にあるのでせう。ここでも所有的衝動に対する創造的衝動の優位を再認識させら

れますね。状態としてのみちたりた心は所有的衝動の満足であり、動態としてのみちたりた心は創造的衝動の満足なのでせう。そして前者は常に防禦的受動的であり、後者は前進的積極的です。生きるると云ふことはこの後者の道を云ふのでせう。それは不断に個別の普遍化、個別の普遍による克服、脱皮です。それが成長です。僕もプランティションを書いてゐる中に、創造的生活の燃焼を体験しました。創造的生活は常に飛躍と苦難とに充ちてゐます。苦しみもまたさう云ふ形では「みちたりた」ものとなるのでせう。だが創造的生活の苦しみと悦びとは、之を共にする他者がある時、一層豊かで「みちたりた」ものになる、それを今度僕が南北戦争を書くとき、充分に体験し得るでせう。いづれにせよ「プランティション」が僕の成長を齎し、同時にあなたの成長をもたらしたとすれば、あれが出版に支障を来しても、また無駄ではなかつたことになりませう。

今日もまた竹中君駄弁りに来ました。やつぱり話は結婚問題にいつの間にかすべりこみました。「やつぱり結婚するのかい」「わからない。この月中にどつちかきまるだらう」「頼りないね。だがまだ半月考へる余裕があるから、すてたものでもないかな。僕はとにかく忠告をやめないよ。しつこくしつこく云ふよ」「だけど僕だつて苦しいんだ」「なあに、大して苦しんではないよ。本当の苦しみと云ふのは、そんなことも決定出来ないと云ふやうな人間には味はふことが出来ないんだ。云ひかへれば、そんなわかり切つたことでも不決断な君には、本当の一人前の苦しみを味はふ資格がないんだ。ちようど膝までくらの浅瀬でバチャクヤつて、溺れさうだ苦しい苦しいと云つてるやうなものだ。ちよいと冷静に判断して立てば、ちやんと足は立つし、溺れるも苦しいものもないものなんだ。そして人生上のさう云ふ重大問題で妥協しか出来ないやうな人間なら、他の何でだつて妥協ばかりするだらうし、僕はもう君を人格として尊敬しなくなるよ。そのことは僕にもいささか辛いことなだけだ。だつて尊敬しないとしたら、君に借金を返さねばならんからな。金を借りることだつて一つの敬意の表明だよ。さうだらう、嫌な奴から金借りることは誰だつてしないだらう。友人であり敬意も持ち得る相手であればこそ、快く借りられるんだからな。嫌な奴から借りるよりは、非人格的な高利貸から借りる方がいいつてのは、常識だらう」「そりやさうだね。さうすると僕も今まで敬意を表されて来たわけだね。ちや文字通り毎度御ヒキになつて有難うございますと云はねばならないね」「さうさ、だから君がそんな結婚をするやうなら、それまでに借金を返へせるやうに準備しとかなきやならんから、僕も真剣だ」「いやそんな風に云はんでくれよ。之からも借りてくれよ」「借りられんよ。軽蔑してゐる人間から借りられんよ。君は原理は原理、現実も現実と云ふ風な俗悪な論理をどうしてすてられないんだらうね。生きるると云ふことは個別を不断に普遍へ合体統一させて行く

ことだよ」「また普辺と個別か」「さうだ、いつだつて普辺と個別だ。ちつともわかつてないんだから、いくらでもくりかへす必要がある。現実と云ふ個別を、原理―君が正しいと承認する原理と云ふ普辺へ合体させねばいけない」「そりやさうだがね。併し見合ひ結婚だつて、結婚後に相互に理解して行く努力をすればよささうだがな。僕の親父とおふくろだつて、矛盾はあつてもうまく行つてゐる方だし」「親父と自分と比べてはいかん。親父はさう云ふ人間関係の原理を知らない世代の人で、従つて矛盾を矛盾として感受し得ないんだ。ところが君は知つてゐるんだぜ。君は智エの実を食つたんぢやないか。リンゴを食つたんぢやないか。さうなら裸かを恥づかしがらんといけない」「うーん」……。まだ半月、彼がいやがつてここへ来なくなるやうなことはない限り、同じやうなことを繰り返すことせう。そしてそのくり返しの中で僕もこの問題について論理をきたへ、豊富化する機会をもつてせう。

所が臼田君もやつぱり結婚問題で一つの悩み(?)をもつてゐたのです。初めて見た時、私はこの人なら結婚出来ると思つたんだわ。その後三年間、結婚と云ふことを全然問題としない形でつきあつて来て、私が最初の直観(直観)でこの人はさう云ふ意見と云ふ感じかたをもつてゐる人だらうと推察した、殆どその通りの人だとわかつたのよ。その人は徹底的に「科学者」で云ふんでせう。どんなことにも科学的な理由づけが出来ると云ふの。そして理性で科学的に裏打ちされない直観なんでものを徹底的に受け入れないんだね。私はどつちかと云ふと直観を重んじる方でせう。だからその点である人の云ふことと食ひちがふけれど、だけどとにかくその人と結婚したい、この人でなければ一生結婚しないだらうと云ふ風な所まで来ましたの。ところが相手は必ずしもさうぢやないのよ。そしてこの三月に南方へ行つて了つた。それがこの九月に帰つて来て、今度は向ふ(向ふ)から人を介して結婚を申し込んで来たんですよ」「なんだ、それぢや文句ないぢやないのかな」「ところが彼が申しこんで来たのは、私が彼に夢中―これは私の友達が云ふ言葉よ、とにかく夢中だと云ふことを知つたのでさうしたんだと云ふことを、私知つてゐるの」「どうして」「だつて中に立つた人がさう云ふんですもの。さうなると私も今のままですなほに承認出来ないことになつたわ。それに私は恋愛とは何か燃え上つてくるものがある筈だと思ふのに、そんな風に燃え上つて来るものが感じられないので、躊躇してゐるんですわ」「ふうん。それやリーベにも夫々の人の個人差によつて、いろんな形式があらうからね。君は何だかりーべと云ふ感情のあり方について、固定観念を脱却出来ないでゐるんぢやないかな。燃え上らなくても立派にリーベである場合もある筈だ。中年以上のリーベは大てい平靜な落ちついた、いはば燃え上つたりしない形で進むだらう。大体君は燃え上つたり、一つのこと情熱的に

執着したりする型（タイプ）ぢやないのぢやないかな」「さうかも知れないわ。でも執着はするわよ。三年もさうして来たのですもの。尤も動揺したりあきらめたり思ひなほしたり、たしかに熱情的にはなかつたけれど」「併しなんだね。話をきいてゐると、君の態度は自分で実践的に出るところがないね、何だか待つてゐる形だね。相手が自分を欲してゐるかどうか不明瞭なら、相手にきけばいいだらう。口頭できにくいなら手紙がいい。凡ゆる手段でもつと分かり合ひたい所、わかりあふべき所を、お互ひにわかり合はうと努力すべきだ。自分の感情だつて、燃え上つてくるのを待つと云ふ風なのは神秘主義だね。もつと結びついて行く、理解し相手の生活へ参加して行く、そしたら感情も或ひは燃え上るかも知れないし、少くとも深まるだらう」「さうだわ、お手紙書かうかしら。いつも会つては話すんですけど」「会つて話すことは必要だが、口ではうまく云へなかつたりすることもあるからね。リーベには話すことと手紙を書くことは同じくらい必要だよ。凡ゆる手段で自己を表出し相手を表出させ、理解し理解されねばならないんだから。そしてたとへば三月に南方へ行くときは結婚の意志がなくて、九月に帰つてからその意志が出来たことについても、よく説明してもらふんだね。それから今のやうに、結婚生活がいろんな意味で常態にあり難い時期に結婚を決意する以上は、それらの場合―応召とか何とかの場合についての考へてゐることをよく聞くことだね。本當のリーベならさう云ふことは問題ない」「だけどあたし独歩の『夫婦』と云ふ小説を読んでこわくなつたわ（独歩は僕がすすめて全集を読ませた）。あんな風になるおそれが相当あるんですもの」「ああさうか。でも大丈夫だらう。独歩の『夫婦』のやうにして、觀念化を克服すればいいんだから。いづれにせよ、人間の資質の上で最低限に必要なことは、誠実さとすなほさだ。すなほと云ふことは眞実を受け入れることだし、誠実とは眞実を持続することだ。この二つ、実は一つと云つてもいいんだが、とにかく眞実と云ふものを受容し、それに誠実であると云ふこの資質さへあれば、大丈夫結婚して行ける。さう云ふ人は夫としても友人としても信頼出来る。その上で慾を云ふなら、生活感情と世界觀とが一致することだね。生活感情とは世界觀の個々の日常生活的なあらはれだ。彼の喜び悲しみを自分も同じやうに共感し得ると云ふことだ」「その人はたしかにすなほだし誠実だわ。あたし自身はよくわからないけれど、だけど友達でも何でも誠実な人でないと嫌ひだし、人に誠実を強く要求するから、あたしも誠実なんだらうと思つてるわ」「その問題は森井さんによくきいてみるんだね。その問題で、君の結婚の問題のことだけだ。僕から忠告出来ることは、愛情とは神秘的なものでなく人間の現実的関係の心理的反映にすぎないこと、そして人間の現実的関係は相互理解によつてのみ深められること、理解するとは相手の生活なり心理なりへ参加することだと云ふこと、なり行きを待つと云ふことは不誠実だと云ふこと、之等だ。

あとは君自身の努力にかかつてゐる。失敗はおそれなくていい。行はない者は誤(まち)ちを犯かさない。行ふことはすべて飛躍であり、いのちがけの飛躍だ。おそるべきは、その行ふときに自分の理性や感情の全能力を以てしないことだ。やつてごらん」……。

具体的には彼女の相手の男性を知らない以上は何とも云へないが、とにかく白田君の話の方が竹中君の場合よりずっとはつきりしてゐて、理性的です。

今夜は思つたよりあたたかい。昼食は豆めしだけだったが、夕食はその豆めしの残りを、さといもとかぶらとのみそ汁で雑炊にしました。そしたら小使さんがいもの天プラをもつて来てくれました。かたじけない。

独立戦争は中々むつかしい。まだ自分のものになり切つてゐないのですね。苦しんで苦しんで書きませう。では。こんなラモーの甥的な手紙はつまらないでせうか。だがかう云ふ問題は実に到る所にころがつてゐて、しかもいたる所で人をつまづかせてゐますね。

幸子から謙一あて（一九四四年一月一六〜一七日の記、一八日の消印）

十一月十六日夜

今日十三日附、十四附の手紙と小包み落手。どうも有難う。殊にたばこはどんなによるこばれた事か。もう二日前から全くなくなつてウロ／＼してゐるので、何とかならんかと氣をもんでゐました。煙草がないと食欲までおとろへるらしいのね。

夕飯はとう／＼(たうとう)抜きにした日もありました。大きな伊セえびのたたいでメンチにしたのを作つたのに。

早苗ちゃんに持つて行つてもらひましたの。「イヤ、これはこれは」と云つて、忽ち恵比す顔になりました。煙草のない日は本もよめず、さつさと早寝をしてゐましたが、今夜は楽しさうにブカ／＼やり乍ら起きてゐます。本当に感謝してゐました。フーチャンも小包みのひもをとくのもどかしい様に、まつてゐて「私がといてあげる」なんて、手を出した程でした。

十一月十七日（晴）十四度

昨夜はどうも睡くなつて途中で止めてねむつてしまひました。いい本をみつけた相で本当に良かったこと、竹中さんからそんなに借金すると、すぐ返せないから、私の方から送りませうか。原稿料が今月中にはいれれば好都合だけど、そううまくすぐはいるかどうかかわからないでせう。

お米の配給ない相ですが、今食べる分はあります。風邪は未だよくならない様でいけませんね。石炭の残り火であん火を作つて、早目にお蒲団を敷いて、其の中へ入れて中を暖めて、アスピリンを服用してねる様に。

ハッカーは読み易いから、もう相等よみました。割合に物足りないです。何と云ふのか、ほり下げが足りないのです。うか。すーつと通りすぎてしまふ感があります。説明も食ひ足りないところが多いようですね。でも一応まとまつて面白い事は面白いと思ひます。

早苗のダンテ叔父ちゃんはまだもう終りになりました。時折、口の両端を曲げて、これダンテおぢちゃん、と云ふ位なものです。さうく此の前、庭掃除の時、ニョキく手足を伸した不行儀の枝を払つた時、"チーチ出るよう"と云つて嫌がつた事がありました。が、事実は血なんか流れないので妙な顔をするし、私も説明に困りました。

ギリシャ悲劇を盛に読んでゐるようですね。私ももう一度、アイスキュロスをやみたくなりました。一体どんなのがあつたのかロクく覚えてゐない位です。今度は一度にアイスキュロスからすぐ次へかからず、一定の間をおいて、ソフォクレスへゆかうと思ひます。私の読み方は大量を咀嚼せず呑みこむ癖なので、さうして食べたと思ふお茶漬式読書法ですから、消化不良の結果しか残りません。併し昨年あたりから大部ゆつくり噛み、栄養を採るくせはつきましたが、ともするとお茶漬の早のみこみに戻ります。

確かに偉大な作品の中には人間の二つのタイプが厳然と出て居りますね。そして其の二つのタイプを歴史的変動期は、こゝと更色濃く各人に表現させるのでありませう。社会の平和でない非常の時には、各人の持つてゐる性格や考へ方が、あいまいもこたる状態を続けさせませんから、実に如実にあらはれてまいります。このごろは日常の生活のありようを見ても、一寸した問題話題でも、直ちに其の人の持ち分をはつきり前面に押し出すチャンスが多いです。

ブルーズ、お気に入つたようで本当に私も嬉しく思ひます。苦心したんです。かうやればどうだらうとか、いろいろ皆の知恵も拝借して、むづかしい所はフーチヤンに頼み、其の間「何なりとあなたの雑用を承ります」と云つて、早苗の UNCHIE の世話もお茶の支度も後始末も引きうけて、―すこしは気兼ねもし乍らです。昼のうちはブルーズでまにあいますが、夜分は駄目ですね。ガウン式の櫛入れどてらでもなくつつちや。

竹中さんとの結婚問答は大変面白くよみました。私なら「親の決めた相手とだつて恋愛出来るかも知れんぢやないか」「まつてゐても恋愛のチャンスなんか中々やつて来やしない」なんて相手に云はれたら、一寸返事が出来なくなつたと思ひました。かも知れん、なんて万に一ツをと云ふとみくぢ式の考へで結婚する事は、本当に人間らしい態度ではありませぬ。あの問答は大金嬢にも大いに参考になると思ふので、そのまゝ引きうつしにして送つてあげました。其の後あの件については、大金嬢から何の報告もありませんが、動揺してゐる事は事実でせう。

竹中さんとの其の事で、あなたは自分の説得力を悲観してゐるけれど、それはあなたが誤つてゐますね。竹中さんの今までの廿何年かにしみこんで来た觀念が、その後の一年や二年のあなたの説得力で全部更新されるわけではないから、理論として承認する（むしろ反対でない）と云ふ位の）程度のところ、まだそれ以上、竹中さんの觀念の凡てを變へる点までには行つてゐないのでせう。即ち皮膚の少し中位までの注射のきゝめではないでせうか。それは注射がわるいのではなく、長い間に形成された組織を變へるには、まだ適量に達してゐないのだと思ひます。悲観や自嘲はもつての外です。私だつて、あなたと随分長い夫婦生活を続け乍ら、未だにあなたの話す事を充分に理解し得ぬ場合も相当あるでせう。あなたがよく云ふ、人間が既に持ち続けて来た觀念を捨てる事のどれ程苦しい事か、と云つたと云ふロマンローランの言葉を思ひ出すべき事でせう。あなたが何時でも全力をあげて、うさを撃つ獅子であれかしと思ひます。

「プランテーション」も反射的な与論や人氣の事を思ふ勿れ、と云ひ度い事です。死んでから何年か何十年か、何百年かの後に理解されたと云ふ人はどれ位あつたでせう。生きてゐる中に三人でも五人でも理解されたら幸福ではありませんか。ましてやあなたの抱負は世界を相手であつたでせう。あなたの心血を注いだものは、バルザックの云ふ良書である、と私は信じてゐます。良書とは長命の書であると。一時的な理解者を得る事や、きはもの的な人氣は、長命とは云ひ難い。今日はすこしいばつた事が云へたから面白くなつて来ました。

さて本日（十七日）防寒頭布と大豆と餅六個を送りました。お餅はあまりにすくないけれど、一人分なら一回の食事に相等しますから、それにめざらしいですから、小量乍ら一緒に入れました。召上れ。

あなたのこちらにゐた時、私たちがむいた渋柿はもう食べてしまひました。それはくゝあまくておいしくなつて。大きいたる柿はまだとつてあります。

「プランテーション」の緒論のノオトは出来上つたので、又よみ返し、それから第二章四節以下のノオトも再読し終りましたから、いよく今日から第五節の五からノオトにはいります。緒論は本当に立派な出来だと思ひます。願くば他

の読者も緒論を少くても二度はよんではしいものです。緒論でアメリカの歴史も経済も政治も把握出来るし、アメリカでなく世界のすみずみに残つてゐる人種的偏見のいろんな表現のあり方も、基礎は何処にあるかをそれぞれの立場で了解出来ようし、どんな風にあるべきかも考へられる事、残つてゐる清算されるべきものが、どの様な害悪を社会に（政治、経済上）影響させるものかを考へさせること、一見どうにも現在では解決出来ない様に見える事も、人類の歴史を押し進める力がチグザグの道をゆき乍ら必ず解決すると云ふ確信も与へられる事（これは特に歴史的描写を通して感じられること）でありました。特に私の場合は世界歴史はどうなるんだらうと云ふ不安から、確信への道を与へられたと思ひます。ちようど運よくイタリイネサンスを羽仁氏のミケランゼロで読み、かんたん乍らヴァン・ルーンや其の他で独逸の宗教戦争を、ボクロフスキでオランダと英国の人民の運動を知つて来た事が、「フランティション」の理解の上にとれ位役立つたかと思つてゐます。そうして「封建」をおし倒した人間の自由独立の精神が、すこしづつ／＼前進して来た事を確め得た事です。さうしてその歴史を押し進める力のありようを確認し得たことは、独立戦争にも南北戦争にも解決し得なかつた問題を、シエア・クロッパ・ユニオンの成立と、I・W・Wとの結びつきが解決する道であらうとの確信へゆきます。

あまり長くなつたので、今日はこれでおしまひにしませう。

謙一から幸子あて（一九四四年一月一七〜九日の記）

十一月十七日（金）晴

午後、先日の約束によつて成城の北条君を訪ねました。出がけに郵便箱にあなたのNo.27（十四日付）手紙を見出し、タバコヤの角のポストへ僕のNo.20の手紙を投函しました。人通りのない道は、手紙読み々々歩くのに都合がいい。

空襲の御注意有難う。ぬかりなくやつておきませう。だが僕が信州へ立つたすぐあとに空襲が来、帰京の前日にも来たが、帰つてからは全然来ないのも暗号の妙ですね。此の頃少し緊張もゆるんだやうです。ゲートルをまかない人も多いから。僕も今日の外出は家にゐるスタイルへボウシをのつけたきり、すなはちお手製ジャンパーとブルーズとずぼんだけの身軽さです。晴れてゐるとはいへ風は寒く、無論夕方までに帰るつもりで、コンロもマッチの火をつける直前と云ふ形に準備しておいたのです。

成城の彼の家のまわりは此の辺よりはるかに郊外らしく、秋色も一しほあざやかです。尤もその秋色のあざやかさは、たまたま一軒の家の生垣のドウランが燃えさかるやうに美事に色づいてゐたことに起因する印象なのです。

彼の部屋には先客が二人ゐて、例の如き談論風発の最中でした。先客とは、近く秋田へ行く筈で此の間送別会をすませたばかりの藤本君と、もう一人は僕には初めての西口君と云つて北条君の義兄、すなはちフラウの兄に当る人。二人とも労研の研究員で、成城から余り遠くない所にある労研からの帰りに寄つたのでせう。

政治についての議論は、僕も聞いてゐる方がいいのだが、と云ふのは実はまだ自信がないのだが、かう云ふ議論は全然きいてゐるだけと云ふわけにはいかない。政治についての理論的水準はさう人におとるとは思はないけれど、政治批判には情報に通じてゐることが大切で、その情報と云ふことに関しては、経堂に引きこもつてゐると余り伝はつて来ないのです。

僕達がこれまで殆ど誰彼かまはず論争に引きこみ引きこまれて来た主題は、個人的人間関係（夫婦、結婚、リーベ、友情、ヒューマニズム）、歴史観、芸術、政治等だが、之等についての理論を世界観として統一的に研鑽する努力の過程で、僕は、個人的人間関係のそれを基礎に、歴史及び政治にまで上昇しようと云ふ傾向にある。之に対して北条君は芸術理論から出発して、個人的人間関係↓歴史↓政治であり、藤本君は経済学↓政治であつて、個人的人間関係については余り考へてゐない。結局、北条君は理論的体系に於て一番確かであり（哲学の素養のあるためか）、僕の芸術観は彼の示唆に負ふ所甚だ多い（尤も彼の理論の根拠はM. E. （原文）であつて、その点特にオリジナルなものがあるか否かはまだ不明だが）。だが北条君の人間関係についての理論は、体験から出発するよりも理論から理論として出て来たものと云ふ感で、従つて個人的人間関係の理論では、僕の理論的水準はさう人に負けはしない。之と聯関して歴史理論に於ても、僕は他人に乃至は他の説に論服させられないだけの僕自身のものを持つてゐる。まだ充分人に理解させ得るやうには表出し得ないにしても、そして僕の歴史理論の強さは、個人的人間関係の理論と緊密に結びついており、この後者は結局あなたとの生活の体験から得たものに外ならない。

そんなことを思ひながら時をすごして、いつか暗く寒くなつたので、帰らうと立ち上つたら、夫人がごはんが出来てゐるからと引きとめるので、疎開やもめ共はごちさうになることにしました。藤本君も疎開やもめなんです。「飯つくるのも大変やねえ。食つてしまふとあとかたづけんのいやになつて一時間ぐらいぼうとしてるわ」「あとかたづけがいやになるほど複雑なことするのかね。僕なんか出来次第片づけて行くから簡単だよ。おかずなんて大てい作らないで雑炊

にするし、いもがあればふかし、メリケン粉があればムシパンにし、豆があれば煎り豆にして、要する各箇撃破だ。全軍揃はないと攻撃に移れないと云ふ風なやりかたしないんだ。出来次第単独に食って行けるものしかつくりたくないだ」「なるほど、それもいいね。僕もおかずは何でもかんでも醬油で煮るより知らんから」「そいぢや調味料が足らんだらう」「うん足らんねえ。ストックあるからまだ今のところいいけど」。

さて食卓につきながら、キンピラごぼうとしんの煮つけ、おひたしのごちさうを見て、「奥さん、このにしん配給でせう」「ええおいしくないんですけど」「いやあ、配給のものたべちや悪いなあ。それからこれどうしてつくるんです、このごんぼは。やつぱりいためるんですか。どうも自炊すると食事も研究的になつてね、出来たものとしてすなほに食へないね、出来る過程も問題になるんだよ……」。疎開やもめの体験浅い藤本君は、二云ふことすべてしろうとくさし。

結局九時近くまでしゃべって、「おい暗いぜ、藤本、お前帽子ぬいで先に立つてくれ」「馬鹿云ふなよ、風邪ひくよ(註、彼の禿頭此の頃益々冴えたり)」。などと云ひ云ひ帰りました。帰つて余りさむいので、炭火を起して湯をわかし、晩ごはんの分の豆飯は、明朝の雑炊へとつておくことにしました。

十一月十八日(土)曇雨

また雨、隔日ぐらいに晴れたり雨になつたり。どうも水つぽい秋です。水つぽい方がいいのかもしれない。焦熱地獄はまつびらですからね。

石炭の火を多く起したので、朝食の火がそのまま昼過ぎまで持つて、竹中君もこの部屋へ仕事をもちこみました。近頃弟子が二人出来たわけです。

白田君は来るなり、「やつぱり駄目ですわ」「何が」「だつてちつともわからないんですもの」「何だね」「あたしの氣持がわからないのよ、相手にね」「どう云ふところが」「結局駄目ね、あたしが男の友達とつき合つて来たのがいけないて云ふのよ」「そんなら之からつきあはなきやいいぢやないか、その彼が君にとつて何にも増して必要なら」「いえ、これからのことぢやないのよ、以前のことなの。だから駄目なの。あの人と育ちかたが余りちがひすぎるんだわ。あのかた一人子でせう。まるで友達でないのですもの。余りピューリタンすぎるわ。あたしだつてその点ピューリタンだけど、全然男の友達なしに―それも何でもない友達よ―、つて云ふわけにはいかないわ、兄が三人もあるし、家は逆も開放的だつたんですもの」「ふうん。ぢやあれだね、スメドレーと印度の革命家の関係みたいなものだね。しかし一つ手紙を

書いてごらん、自分の環境やいろんなことを相手に理解させる努力をもう一度やつてごらん」「さうね。あたし何だかもういやになつたんだけど。森井さんだつてわからない人だておつしやつてゐたわ」「森井さんがその人にあつたの」「いえ、あたしの話で書いて。でもお手紙書いてみようかな。結局彼のあたしに対する気持は、ちつとも恋愛ぢやないのね。恋愛ならそんな過去の何でもないことが、問題なんかになる筈ないわね」「むろんさうだらうね。併しまあ書いてごらん。この機会を自分のおひ立ちの反省に利用したっていいわけだし」「ええ書きますわ」。

午前中せつせと書いて忽ち十五枚ぐらい書いて、「何だかいやになつたわ」などと云ひく、「どれくどんなこと書いてるんだい」とのび上つて来た竹中君に読ませてゐました。「ラヴ・レターで云ふもの書いたことないんだよ」、これは竹中君。「ラヴレターを書かんと駄目だ。僕なんかトランク一杯書いた」「だけどどんなこと書くんだね。そんなに書くことあるかい。尤も君ならあるだらうね。また普_通辺_通と個別とかどうのかうのなんて書くんだらう」「そりやさうさ。だけどラヴ・レターに書くことは無限にあるよ。リーベをすると書くことは無限に出来てくるんだ。リーベは人の生活を豊富にするからね、何を読んでも見ても体験しても、一人ぢやなくていつでも二人として体験するんだからね。一人なら何ら書くに価しないことでも、リーベする人にとつては書くに価するものになるんだ。リーベの一年の生活は、普通の人間の三、四年の生活に相当するほど内容豊かになるんだ」「そりやさうだらうね」「だからリーベをしろと云ふんだ。いや少くともリーベなしの結婚なんかするなと云ふんだ。リーベなしの夫婦はただのいちプラスいちで、そのいちぶらすいちも₂になるとは限らず、大ていの場合₂以下、うっかりするとまいなすになる。反対にリーベは各々を夫々に変革するから、普通の算術ぢやなくなるんだ」。

「さうだらうね。それはさうと『魅せられた魂』も二巻までですんで来たけど面白いね。アンネットは強いね。強すぎるんぢやないのかなあ」「どうして」「あんなに強く生きることは理想だらうけど、現実ぢやないんぢやないかなあ」「俗物らしいことを云ふね。全く俗物だよ、君は。いつもはさうでもないのに、やつぱり今俗物的な結婚をやらうかやらないかでくよくよしてるもんだから、考へることがすべて卑俗になるんだ。強すぎるものか、アンネットは。現実だよ。西洋ではアンネットのやうな形象は、前にも云つたやうにギリシヤ時代から実に鮮明にあらはれてゐる。アンチゴネー、エレクトラにはじまつて、ルネサンス時代のシエークスピエ劇、スペイン劇の中の無数の人物、それから十八世紀後半のレッシング、ゲーテ、シラー、スコットの中の人物、バルザックにだつてずい分ある。日本にだつて、森鷗外の「最後の一句」のおいちぢつたかな、それから安寿だつてさうだ。みんな十四、五才から十一、七才までの少女だよ」

「だつてそれみんな創作だらう」「無論創作さ。だけどその時代の現実の中に見出される人間達の中から、最も典型的なものとして形象化されたものだよ。だから最も現実的なんだ。単に頭の中からの創作なら、万世をつらぬくやうな魅力はあり得ないよ。僕等の周囲にだつて探せばあるにちがひないんだ。だけど日本の社会は人間関係が一応にも解放されてゐないから、たしかに多くはなからうがね。十四、五から六、七の時に人間的資質の光茫(あかり)をはなつ少女が多いにちがひないが、結婚前期の女の最も困難な時期に、社会制度の重圧干渉の中で屈服させられてしまふんだ。ジャジャ馬馴らしのカザリンのやうにね。それから三十代になると、また人間性を恢復するのがあるんだ。人生の苦難にきたへられた末にね、人生に教へられた結果ね。だから君だつて、もつと人間関係について自由な考へをもち、資質への洞察力をはたらかせれば、リーベのチャンスがないわけはないんだよ」「ふうん、だけど君のやうなのは日本ぢや例外ぢやないのかな。君は別だよ。大ていの人はもつと俗的だよ」「ぢや僕は俗的ぢやなくて宗教的な存在か」「いや、何て云つたらいいかなあ、芸術的なんだよ。芸術家だよ君は」「それでこの上つぱりが似合ふわけか」。やつぱりまだ駄目です。

今日はオバケのやうに大きいおもを十三貫、従つて一人一貫二、三百匁買へました。コンロの火がきえると二階もさむく、雨で暮れるのが早いので、四時頃に火を起しました。みんなも暗くなるので帰るのが早い。この辺は全く暗いですからね。

ピアノはトロメライと魔王を続けてゐますが、まだ中々面仆です。

十一月十九日(日) 晴

昨夜ね(お)づみが出て、おもをかぢ(お)られました。おもいもしいと思つてしらべたら、部屋の東隅の本棚の上にフスマのやうなもので蔽つた窓がありますね、あの窓の一つにストーヴ用らしい煙出しがあつて、そこからは入つたらしい。今日はとぢておきました。

午前中小包が来ました。どうも貴重なものばかりで有難う。おもちは今夜、大事にいただきます。ねづみを警戒してレイゾウ庫へ豆もおもちも入れました。ズキンも中々よく似合ひます。中々上手に出来ましたね。ブルーズとよく合ひます。本当にどうも有難う。

昨日、ダイヤモンドの松沢氏から電話で原稿を依頼されました。廿四日までに五枚に黒人問題を書くのです。今度はハーロンドンのことを書かうと思つてゐます。

午後、此の手紙を出しに行かうと思つてゐると、北条夫妻がやつて来ました。いろんな話、彼とは前日の続きのやうな政治、歴史、芸術の理論的な話、彼女とはピアノ（彼女はピアノをひくのです）、シューベルトやシューマンの歌、猫の話などしてゐる中に、丁度森井さんから帰つて来た中島君の詩を読ませたり、昔のスケッチ（滝ノ川の最初の年に書いたもの）を見せたりすることになつて、感想をききました。一つ一つに中々いい感想を得ました。そんなことで、すっかり暗くなつても話はずきないので、火を起してもふかしました。結局午後八時近くまでシヤベつて、彼は僕のダイヤモンド日報の前の「南部問題」と「プランテーション」の原稿の緒論の部分とを持ち、彼女の方はシューベルト歌集の中に写させてほしいのがあるからと持つて、帰りました。二、三日中に返しに来ると云つて。

北条君にはげまされて、夏から考へてゐる詩を完成してみようと思ひ立ちました。あなたの誕生日までに完成して献じたいものです。彼等は僕の詩をほめてくれます。さう云へば昔の「六月二十一日」の詩は、北山氏にも北条君にも大変ほめられたのですから、僕の詩もまんざらすてたものぢやないでせう。スケッチでは、スリッパ姿で椅子にかけて本を読んでゐるあなたの絵を一番ほめられた。それからあなたの寐顔の絵も。

この手紙も、人と話したり人と会つたりしたことばかりの手紙で、あなたには余り興味もないかも知れないが、実際には之等の人と話したり会つたりを、すべてあなたと二人でしてゐるやうな気持なのです。之はこじつけでも何でもない。要するに僕の生活は僕一人である時も、いつでもあなたと共にゐるのです。いつでもあなたの心使ひやあなたの眼、あなたの心情を身近かに、従つて僕の対話者もいつも僕とあなたと二人を相手にしてゐることを感じてゐる苦なんです。ちよつと神秘的な云ひかたのやうだけれど、あなたが考へてゐるよりはるかにわかりきつたこととして、僕は二人であるのです。あなたはだから、あなたの知らない間に、こちらで僕の接するいろんな人々と接触してゐるわけなんです。あなたが欲するか欲しないかに拘らず。

今日は北条君達がおそくまでゐたので、つい早川君の所へ行きそこないました。ソフォクレスを読み終つたが、そちらへ送りますから、ひまがあつたらあなたも一度読んでごらん。アンチゴネー、エレクトラ、オイヂプースが特にすぐれてゐるし、「トラキスの女達」のディアネラとヘラクレスの形象も立派です。アイスキロスもソフォクレスも何と違ましく偉大なのでせう。歴史的時代の運動、民族的運動についてはアイスキロスの方が勝れて居り、ソフォクレスは個性の描出に勝れてゐる。そのことにギリシヤの時代的變遷があらはれてゐるわけだせう。今度はオデュッセウスを読みます。

紀州行きはどうしますか。あなたの身体に無理のないやうに。
では今日は之だけ。

謙

幸子から謙一あて（一九四四年二月一日の記、一九日の消印）

十一月十八日曇8度

お父さんは遠山まで手術の往診にゆきましたので、今日は病院も暇です。二階にも炬燵がはいる事になり、部屋の模様替を致しました。其の最中に古野喜代子さんからお手紙が来ました。此の夏関西へ行つた時、あき子さんの話では豊中の方は配給は幾分良いとの事でしたが、もうあちらも野菜も魚も一ヶ月に一度の配給になつた相で、不自由だが自然（中略）にゐる身体がたまらないから、がまんしてゐると書いてありました。

和歌山からは其の後何のたよりもないので、まだ温泉旅行から帰つてゐないかも知れませんが、都合もある事であろうから、和歌山ゆきは暫く見合せに致します。もう一つの理由は伊勢湾あたりまでボーイングが来る様ですから、旅行の途中で空襲にあふ事を思ふと、関西の方は私はあまり知らない所ですから、其の不安もあります。あなたの良く云ふ様に戦局がもうすこし安定してからの方がいいです。

今日は本当に寒い日、猿も小みのをほしげなり、と云ふ風な時雨になりました。寒原峠のあたりはどんなでせうね。あなたの勉強まも、こんな日は佳しい事でせう。

第二章五節五―六のノオトは昨夜中にすみました。五節では此の五、六が面白いですね。手数料制度はアメリカ南部ばかりにあるのではないことを思ひます。本来にあの様にいまはしい陋劣な制度やしきたりの、それにたづさはる人々の害悪の恐ろしいことを考（税）させられます。法制も制度ですが、其の法律を行使する人々によつて、どんなにでも変形されてゆく事は、他の事柄にも押し進めて考へられる事です。おくれた土地のおくれた法律、一方的な法律が、おくれた理解力の持主に左右されてゆく事実は、私共は身を以つて知つて来てゐますものね。

囚人労働は日本にもあるでせう。囚人の作つた机や家具、其の他いろいろのものを買った話を前にも聞いてゐます。囚人に生産労働をさせてゐるところは世界中随分あるのでせう。唯それを骨に営利手段としてゐるかどうかのちがひですか。外へ売り出す事は、何れの国でも一般勤労民の労働の諸条件を低下させる事ですなね。

二、三日厚生科学物語をよんだら、其の中に知性と精力の勝利と云ふ題で、ペラグラ病と科学者の斗を誌したのがありました。「正規の食物を充分摂取しない人を襲ふ一種の飢餓病で、やせおとろへ精神錯乱状態となり、口腔内は炎症を起し、下痢を伴ふ」。症状をよむと、私の春やつたのはペラグラ病に近いのね。なる程、精神錯乱におちいつたのも無理もないと思つたわ。で結局、ユダヤ人の医者、ゴールドバーカー(2)は南部へゆき研究の結果、それが強い日光のためでもバイキンのためでもなく、伝染するものでもない事をたしかめ、此の病気が貧しい食物から起ると云ふ信念を得た。つづいてスライズと云ふ若い医学者が、食養生でなをさうとする。入院して来た患者丈に、此の療法をこころみる。すると死亡率54%が6%になつた。「併し退院してわが家に帰ると、又も昔なつかしい食物にかへるため、再び発病して来院する事になる」。

次に、エルヴェーヂェムと云ふ生物化学研究所員が犬のペラグラ(3)（犬のペラグラ(4)へブラック・タン）はイアリング(5)『仔鹿物語』―編者注〕に出て来ました。熊もきつねもうさぎもなる）で研究をしてゐたのだが、遂にニコチン酸アミドと云ふ結晶質を得て、此の丸薬を与へると、魔法(6)のように口の炎症は去り、食欲を起し、三週間の中に目方は二倍になつた。そして此のニコチン酸は犬のペラグラにきいたから、南部の黒人にもきくと云ふ結論で、パーミンガムとシンシナチの病院(7)（こゝは殆んどペラグラ専門）で実験、死亡者一人もなしにした。ケンタキイ辺疆療養会では山の人々に毎週此の薬を与へる事にした。

『併し此の研究者達は、此等の人々の食物の習慣を変へる計画はしてゐない』『もし此の実験と、それにメイシイ、ロックフェラー財団等によつて資金を給されてゐるアラバマ同種の実験から、少量の廉価なニコチン酸が此の病気を予防する事を証明されるならば、此の古くからの猛威を逞ましくした殺人魔に対する大団円も、さ程遠い事ではないであらう』『今から後は貧しき者や栄養不良の人々を襲ふあの恐るべき悪疫で、誰も生命を落す必要はない』と結んでゐました。著者は米国の厚生科学の第一線に立つ医者である相です。

はつきり「貧しい人を襲ふ栄養不足の結果の病氣」である事がわかつたのに、栄養を採れる境隅(8)に導かず、丸薬で一時凌ぎをやる事で、知性の勝利と云ふのは厚かましい。ここにもアメリカの偽善(9)があるのせう。「昔なつかしい食物」とは、実に歪曲も甚しい云ひ方ですね。本来、それが昔なつかしい好きな食物であるのではないのだから。ここにもアメリカ人の人種的偏見から抜けられぬ黒人蔑視が見えますね。根本的な解決をせず、丸薬はびほう策なのに。

一番目のゴールドバーカーと二番目のスライズの実験までは立派です。「營養不良」が原因とわかつた時、道は丸薬の

発見と云ふ、科学者の領分からわかるべきだつたのに。丸薬の発見で厚生科学の役目はすむものかも知れないが、厚生科学の次に来るべき、次の最適の解決まで―社会的な経済的な解決にまで到るべきものなのに。

あなたのプランティションをよんだ結果は、ペラグラ病の処置についても、以上の感想を与へられたのだと思ひます。以前なら丸薬でペラグラ病の解決はついたと思つたかも知れませんが。あなたの意図した事は実現されてゐるのだと確信致します。本当に情熱こめ心血をこめて書かれたものを、読む方も著者が注いだと同じような心を以つて、時間を以つて読みとらうとすれば、あなたの云ふ如く著者と読者には相通る情熱のフニキが出来るのですね。又してもアナトオル・フランスの言葉を思ひ起します。「読む時」読者のハートは琴をかきならす手である、とか云つた言葉を。誠実な愛情ある読みとり方は豊富な内容を得るし、雑なよみすごしはどんねりラの音も立てさせない。併しりらがあんまりお粗末なら、一寸ちがふけれど。

No.19、十五日附のお手紙落手(十八日午後三時)。

プランティションの発生の原稿は、此の次に続いてよんでみませう。今の独立戦争がその双児らしいのなら早くよませう。風邪を引いてゐるのに徹夜なんかは、どんな事情があつてもいけませんね。昨日「常識としての生理衛生」をよんで、徹夜の害を再認識したばかりです。

中枢神経は一日の働きで充分疲れ切ること、中枢神経の特に脳の完全な回復は睡眠以外にないこと、疲労素の毒素の害、疲労を恢復させずに無理な努力を続ける事は有害無役であること、疲労毒素を健全な者に注射しても、忽ち注射された者は疲労の症状を現はす程強い害のあるものであること、疲労の上に無理を重ねると、次の回復までに要する時間は非常に延長されること。

住居の点、食事の点、全部不備な現在は、徹夜などで脳を疲れさせる程馬鹿げた事はありません。

未完成の原稿で難関を切り抜けた話、前にもそんな様な事がありましたね。芦野さんはたしかにあなたには一種のフニキを持って接するらしいですね。と云ふか、あるひはあなたに一種の「精神」を感じて、家来扱ひ出来ないようですね。それにきつとあの方は、あなたが不熱心や不熱意のために書けないのだとは思はないのですね。だから違約も一概に責め立てる気になれないのだと思ひます。それも常日頃のあなたの様子を(研究所へはいつて此の方、時々ではあつたにせよ)通じて、本の買ひ方、話題、人柄を知つたせいでせう。彼氏が紳士的であるから丈ではなく、あなたの人格の反映でもあるのでせう。それにしても芦野さんが、ピアノを弾き乍ら歌ふ様な特技を持つてゐたと、若干おどろき

ました。他の人々もさう思つたでせうね。原稿の件はたしかに、他の人のとあなたのとは量の差でなくて、質の差である事は芦野さん知つておるでんでせう。書きつづしや何かではなくて、勉強の対度の差でせう、研究の質の差でせうね。

芝生のランチ―あなたのは如何にもきの毒ね。よんでゐてもどかしい様な気がしました。いくら何もなくても、私がゐたなら何とかまとめてあげられたのに。いくらあなたが平気でも、私は一寸平気ぢやないものがあるわ。おさつはもう駄目なの。そんなら今夜上郷の篠田さんから貰つた様だから、すこし送つてあげませうね。

アメリカ史の話、英国史、オランダの独立、共和国建設の話、ルネサンスからつづく自由を求める人間の運動の発展等、此のごろはもつぱら桃ちやんと話題になります。桃ちやんは「お姉さんの歴史の話大好き、又して下さいね」とよくサインクされます。私の話でもそんなに桃ちやんにみ力があるらしいから、うれしくなつていろいろ折々話をします。南部のプランテーションの話はお母さんでもすこしわかつて来た位、但し、お母さんに話す時は大農宮経と云はなくちやだめですけれど。

黒人のおとしめられた地位については、朝鮮の事がよくお母さんから持ち出されます。黒人法の話など、お母さんは真けんに怒ります。『そんな事をしちやいかん。そんな事をする奴は生きてゐるうちに地獄に落ちる。』と云つてフンガイします。けれどお母さんには、今の世界歴史の進展についての希望は、アメリカのありよう、英国の今までの歴史、そして現在から押してなくなつて来る一方で、それ以上の点はもう理解出来さうもないように見えます。昔は世界中のほとんど凡ゆる人間は希望のない生活しかなく、希望の実現は死後の世界にしかかけなかつただけれど、人間のさう云ふ不合理を破らうとする力が、どんな圧力にあつてもつぶれる事なく、其の後の歴史が証明して来てゐることや、現に世界の一つの国は、それを国家として完全に実現してゐるのだからと云ふと、それはさうかも知れぬけれど、自分の生きてゐるうちには駄目であらうと云つて、悲観してしまひます。桃ちやんは積極的には何も云はぬけれど、お母さんどをりに考へてゐるとは見えません。

今日おひるすこし前、二階の炬燵に桃ちやんも（桃ちやんは助膜の気がある程度見えて来たので、ずっと休み）私もふうちやん親子も一緒になつたので、それ／＼手仕事し乍ら、私はアイスキュロスのプロメトリスを此のチャンスによもうと思つたので、朗読役になつてよみました。途中でおしくも食事となり、其の後は三人集まるチャンスなく、私一人で終りまでよみました。本当にプロメトリスとヘルメスの対比、英雄的なものと卑俗なものを感じさせられました。